



## 待降節第 4 主日 (ルカ 1:26-38)

神からの言葉はすべて不可能ではない

待降節第 4 主日です。今年はこの日が 12 月 24 日になっています。いちばん遅くやってくる待降節第 4 主日です。「救い主の誕生」はもう目の前です。ゆっくり構えてはいられない。そのつもりで福音朗読の学びを得ることにしましょう。

親子韓国旅行のきっかけはわたしの銀祝を田平教会で祝っていただいた時のお祝い金でした。5月にソウルの明洞に行った時、日本と気候は変わらないなと思ったので、季節も考えずに12月に予定を立てました。

旅行代理店に相談に行ってみると、「ソウルは寒いですよ～。福岡より寒いです。寒さ対策をして出かけてくださいね」と言われました。店員にそう言われて、そのまま母親には伝えられませんでした。

旅行代理店の予約と支払いを済ませた直後でした。夜 10 時に実家から電話がかかりまして、「やっぱり韓国には行けない。韓国は寒いに違いない」と言ってきたのです。わたしが言わなくとも、衛星放送で世界の天気が紹介されれば、いやでも天気は目に入るわけです。

わたしは慌てまして、「いやいや。日本と気候は変わらないんだよ」と思いとどまらせようと思いました。結果的に、韓国に行くまで不安は解消させることができなかつたのですが、旅行を終えた後は「とても楽しかった。ありがとう」と言ってもらえました。わたしの言葉を信じてよく同意してくれたなあと感謝しています。

さまざまな体験を積みました。言葉の違う生活、本場のキムチ、アワビのお粥、ビビンバ、烏骨鶏を丸ごと入れたサムゲタン。ほかにもミュージカル「ナンタ」の観劇、韓国王朝ドラマの舞台景福宮（キョンボックン）巡り、韓国のタクシー、地下鉄、王宮衣装の着せ替え体験、明洞大聖堂でのミサ、最後は韓国式エステも体験してきました。肌がつつるようになって、出国審査の時に「パスポートの人物と別人になっている。取調室に来なさい」と連れていかれました。最後はウソです。

まあとにかく、言葉を信じて、言葉にこの先を委ねて、抱いている不安を横に置いてついてきてくれたので、今回の親子旅行は実りあるものとなりました。言葉だけしか判断材料がない。写真もない、映像もない、そんな中で決心してくれたことに心から感謝しています。

福音朗読の「イエスの誕生の予告」の場面に移りましょう。天使ガブリエルは、ナザレにいるヨセフのいなずけの MARIA のところに遣わされました。天使ガブリエルも、神からの言葉だけを携えて MARIA と向き合うことになります。天使の言葉に MARIA は戸惑い、考え込むのです。

それでも MARIA は、神の言葉を信じて、神の言葉にこの先を委ねて協力することにしたのです。何より、人間の言葉ではなく、神の言葉であるがゆえに、すべてを委ねることができたのだと思います。

しかしあくまでもこだわる人は疑問を持つでしょう。「天使ガブリエルの言葉は、突き詰めると天使ガブリエルの言葉ではないのか」と。

実際天使ガブリエルも「これこれの言葉を、神から託されましたのでお伝えしました」とは言っていません。

わたしも、少し調べたほうが良いと思い、一か所調べ直してみました。37節の「神にできないことは何一つない」についてです。日本語訳だけだと、それこそ天使ガブリエルの言葉であって、神の言葉ではない印象を受けます。

こういう場合は、できるだけ元の言葉に近い理解を確かめることが大切です。わたしは残念ながらギリシア語はさっぱりですが、元の言葉により忠実に置き換えると「神からの言葉はすべて不可能ではない」となると解説書にありました。

この説明だと、「神からの言葉」であることをより実感できます。マリアは神からの言葉の前に、人間の戸惑いなど何の意味があるだろうかと思ひ直し、ありのまま受け止めようとしたのです。マリアの返事も印象的です。「わたしは主のはしためです。お言葉どおり、この身に成りますように。」(1・38) 神からの言葉に、身をかがめようとしているのです。

ここで見落とせないのは、この場面、マリアが出来事を中心なのではなく、神の言葉が出来事を中心にあるということです。マリアが出来事を中心にあたれば、戸惑い考え込む彼女から神の招きに答える力は生まれなかったでしょう。神からの言葉が出来事を中心にあると理解できたので、「わたしでよければ」という協力が可能になったのです。

わたしたちが持ち帰る学びが見えてきます。中心に神からの言葉があるとき、言葉は出来事となって実現し、救いの計画が前に進みます。人間が出来事を中心にあるとき、神からの言葉は望みのままに働くことができず、出来事は実現しないのです。

わたしたちが、日ごろ思い通りにいかないかつぶやくことがあるなら、あらためて考えてみましょう。出来事の中にわたしがいて、わたしの思いが実現しない、通じないと、つぶやいているのではないのでしょうか。マリアは、神からの言葉が出来事を中心であれば、出来事は受け入れることができると教えているのです。

神からの言葉に中心を譲らなければ、いつまでたっても事態は変わらないでしょう。むしろ、マリアに倣って「神からの言葉はすべて不可能ではない」この体験を積み重ねましょう。

マリアと同じ立ち位置で出来事を見直すとき、世界は神の計画の中で着実に進んでいることが分かるでしょう。その時わたしの口にのぼるのは、つぶやきではなく賛美、不平不満ではなく感謝の言葉となるはずで